

## 平成30年度 食の安全安心と食育審議会「食育推進部会」議事録

日時：平成30年9月19日(水)

14:00～16:00

場所：ひょうご女性交流館 501 会議室

### 1 あいさつ（松原健康局長）

本日は食育推進部会にご参集いただきましてありがとうございます。また常日頃から県政の推進にご協力、ご理解をいただきましてありがとうございます。

8月の食の安全安心と食育審議会では様々なご意見をいただけたと思っております。食育に関しましては「若い世代の課題」や「高齢者世代の課題」など様々な課題が出てきています。

資料2にも「朝食をしっかり食べるための取り組みの推進」ということで若い世代向けのリーフレットも作成し、少しでも摂取率が上がるよう取り組みを進めています。県が何かをして作ったら終わりというのが食育ではなく最終的に県民に行動してもらわないと何にもなりませんので「何をすれば一体いいのかな、若い世代対策には何がいいのかな」という中で始めたのがこのリーフレットです。ほんとに良い施策が何なのかはわかりません。わからないところもありますし、地道な取り組みも大事かと思っております。健康増進課としましても悩みながら進めている事業のひとつがこの食育でもありますので、皆さん方からの忌憚のないご意見ご提言を賜ればと思っております。

また最後に食育絵手紙コンクールの審査も行っていただくと聞いておりますのでよろしく願いいたします。

### 2 議事

#### （部会長）

それでは次第に従って進めさせていただきたいと思えます。最初に食育推進計画（第3次）について事務局からご説明をお願いします。

#### （事務局）

資料1から資料3により説明

### (部会長)

事務局から説明では、食育推進計画（第3次）についての方向性について報告がありました。8月の審議会が出た意見に対する対応についても、資料 1-4 を配付していただきました。

これらも含めまして委員の皆さんからご質問やご意見はございませんでしょうか。

### (委員)

「資料 1-4」を見させていただいて、当然地域との連携をしていくことは今の学校の教育には不可欠だと思います。しかし、朝ごはんを食べていない児童は「親御さんが朝起きていない、朝ごはんを親御さんが食べる習慣がないから子どももそのまま来ている」という状況です。

学校では、子どもには「牛乳コップ1杯でもいいから菓子パンでもいいからとにかく食べてきなさい、食べてきなさい。」と言いますがなかなか難しい子もいます。

今年の夏は特に暑く、熱中症のことが言われましたが、小学校ぐらいの活動であれば、ごはんと納豆やみそ汁など朝にごはん副菜をきっちり食べて、しっかりと睡眠をとって来れば午前中の授業はまかなえる。後は、給食で塩分や水分等をとったら熱中症にはならないのではないかと思います。

また「教職員対象の研修会を充実する」回答については、教職員も子どもたちに食育指導をしなければならないことは十分わかっていますが、全てを「教職員に」というのは難しく、きちっとした指導ができる専門職の栄養教諭や管理栄養士を学校に派遣するような形を考えてほしいと思います。

市内にも子ども食堂がありますが、利用できる子は限定されているような状況です。親世代、若い世代、これから親になる世代、高校生、大学生などにとって簡単に1個33円でおにぎりができるというのは有益だと思います。

### (部会長)

現実的にはきれいに提案しても実際は難しいというようなことがたくさんあると思います。食育がはじまった時には学校がまずベース、学校が先発隊というような形で進んでいったように思いますが、給食が生きた教材というのは下火になっているのでしょうか

### (委員)

そんなことはありません。当然地産地消もあります、子ども達の委員会活動もありますし、「兵庫の日」っていうのもありますし、紹介やアンケートなど、

様々な形で給食に関する取り組みはあります。

しかしながら実際に家の朝食・夕食についての食育となると家庭環境のこともあるので難しいものがあります。

給食を通しての食育、それをまた家庭の方へ広めていけたらいいと思っています。

#### (委員)

私たちいずみ会は本当に県下全域で1万以上の活動回数を行っていると思います。それぐらい地域の人達に食育活動を行っていますが、やはり部分部分な気がします。どこかで集中して全部が取りかかれるのはやはり学校が1番いいように思います。私たちが集めるとすごく料理が上手なお母さんとお母さんに影響されて料理上手な子どもが来ます。そこからもれている子がたくさんいるし、お母さんも来ないです。そういう点からも学校が一番期待が持てるという感じがしています。

#### (部会長)

学校で習わなければならない内容が豊富になって、新しい科目を入れるのもなかなか難しいと伺っています。

食育の中にも一番は「家庭」と書かれていますが、ご両親ともに忙しく家庭での食育も難しくなっています。

#### (委員)

朝食を食べない子は昼食でおかわりをしてしっかり食べる。など、ある程度はお昼で救われている子ども達もいるように感じることがあります。

私たち栄養士会の場合、子ども達の食事の提供もそうですが、学校に栄養士がいない場合は栄養士会にご依頼いただければ、地域の栄養士を紹介させていただきます。せめて何ヶ月に1回でも食についてのお話を聞く機会をつくってほしいです。

「栄養士さんどこにいるの？」とよく言われるのですが「栄養士会の事務局にお電話をいただいたら、いつでも食についてお話ししますよ」ということをこれからももっと広めていきたいなと思っています。

また養成校の先生方と協力して実際の技術的なことも踏まえて食事を作る大切さを伝えていきたいと思っています。まず若い世代に「子育てにおける子どもの食生活、食事は大事ですよ」ということを一緒に考え、取り組めるような事業に関わっていききたいなと思っています。

### (部会長)

この食育プログラムの中には体験というのもたくさん入っていて、年間計画立てて実施されているということですが、調理は全員しなければならないのでしょうか。その力は無かったら生きていけないのでしょうか。

### (委員)

管理栄養士、栄養士は、他職種から見ると「調理はできるよね。美味しいもの作れるのが栄養士ですよ。」っていうのは耳が痛いほど言われます。せめて専門職であるからこそ、しっかりと調理ができ、食の取り扱いができ、食品分類ができる。そういう知識をもった者が子ども達の食支援やこれからは在宅高齢者、様々な世代に教えていく責任を感じております。栄養士養成校と一緒に協力しあっていきたいと思っております。

### (委員代理)

今の時代に合わせた新しい提案をして、もっと若い人達が体に良い食材を食べてもらいたいという活動を会社をあげて取り組んできました。

生活習慣を変えていくということはとてもエネルギーのかかることであると感じ、つくづく実感しますし、食育推進計画（第3次）では、我々の考えてきたことと全く同じことを問題意識としてもたれていると感じました。

私どもの会社でも「体に良いものをもっと食べましょう」といっている若い社員が朝食を食べていません。

企業の意味や会社の力も使い、若い人達に朝食を食べるように、体に良いものを食べるようにといった食育の勉強会を健康診断等とも絡め、積極的に行うべきと考えます。

兵庫県にはたくさんの食品メーカーがあり、健康経営を目指している企業もたくさんあると思います。各企業がやれることをベースにして20代、30代の若い世代にしっかりとした生活習慣を身につけてもらう。20代、30代で好きなことを好きなことだけやって、40代、50代になって大変なことになっている人達が少なからずいます。

自分はそうはならないと思っているが、それを結びつけていけば行動を変えていく力になるのではないかと思います。

子どもの頃から身につけてきた習慣や若い人達が自分の体に対する自信を取り戻すのは難しいなとも感じていています。

(委員)

資料1-4の意見に対しては対応策がびっしり書かれていますが、やはり現場のことをもう少し考慮した方がよいと思います。

子ども達は生きた教材をみるとすごく興味を示してくれます。農林水産省がお魚講師登録制度を運用しており、今では15名のお魚講師ボランティアが兵庫県でとれた魚のことを語れて、料理ができて、うんちくを語ることができます。

30代40代のお母さん方が中心ですが、この人数がどんどん増えていることが嬉しいです。教育の場で話す機会を作っていただき、今後も普及活動をしていきたいと我々の業界では思っております。小中学校でだいたい5千人くらいの子どものところに話しに行きましたが、目標を1万人くらいにしてやっていきますので今後とも協力をお願いします。

(委員)

前回から参加していますが、こんなに若い世代から高齢者に至るまで県をあげて食育活動に取り組んでくださっていることを存じ上げなかったので非常に嬉しく思っております。

栄養の部分からのアプローチは十分していただいているので食文化への理解を深めていき、「日本人が日本の食文化って素晴らしい」ということをもう少し伝えていってほしいと思います。

ユネスコ無形文化遺産にも認定されているくらい海外や外国人の方のほうが日本の食文化に高い評価をあげているように感じます。ユネスコの場合は単なる和食だけが認められたのではなく、それにまつわる日本の食文化全体が評価されているので、もっと日本人が誇りを持って大切に食べ繋いでいくことが重要であり、そういう食文化の教育も増やしていただきたいと思っております。

最近、腸や腸内細菌が話題になっています。和食の米や豆、魚や野菜はすごく菌が好みますし、子どもの時から食べているものなので体質にも合っています。

そのようなこともふまえて「和食ってすごい」と気づいてもらえるような事業があれば良いと思います。

(委員)

小学生は義務教育だからほぼ全員が話を聞かないといけないというのが非常にいいところだとは思いますが、他のイベントやセミナー、講習会においてはある意味で机上の空論に近い部分があるのではないかと。おそらくこういうイベントに関しては興味がある人しか来ない。興味のない人は全然来ない。興味のない人達にどのようにアプローチするかが大切であり、県としてもいろいろ

やっておられるが、もう少しポイントをしばってもいいところがあるのではないかと思います。

日本の教育もレスポンスが中心となり実践的なものがなくなっている。食育とか栄養に関しても実践的なことをあまり経験していないので、机の上だけの物事をやっている。管理栄養士には食品や栄養の機能性の部分も含めてアカデミックなところを知っていただきたいと思います。

また、「時間栄養学」は日本でも流行っており、非常に重要なことだと思っています。いつ食べたかというタイミングが大事であり、我々は体内時計があって、それをリセットするのが1つは日光であって、1つは朝食であるというふうに言われています。それらで一旦リセットをして、地球の位置回転と体内時計の若干のずれを直さないといけません。

もう1点、先ほど「白いごはん」を強調されておりましたが、どちらかというと茶色いごはんのほうが良いと思います。

沖縄は、昔は長寿県でしたが、今は糖尿病は全国1悪く、健康寿命も短くなっています。その理由はもともとの沖縄の伝統食に米軍の影響により極端に西洋食に変わったからだと考えます。しかしこれは沖縄だけに言えるのではなく、兵庫県も含めて全国各地で言えます。

資料1-4に関して、外国人はすごく和食が好きです。学会を開催するにあたり、外国人からいろいろ意見を聞くと必ず「和食のシンポジウムをやってくれ」と言われます。それぐらい和食に興味を持っています。

#### (部会長)

各委員より多くのご意見をいただきました。

食育は様々なところで様々な専門職が集まって取り組むべき分野であると改めて感じています。

イギリスではパンの製造段階から食塩を減らし、国全体の食塩摂取量を減らしたという研究もあります。

日本では国民全体に何かを実施するというのは難しいと思いますが、食育に興味のない人、特に食育推進計画(第3次)は若者に焦点を当て、成果が現れるような方法をとってほしいと思います。

#### (委員)

私たちはいずみ会は食育講座を行っていますが、各市町1か所もしくは2か所と実施できるところが限られています。これを全員対象でやれるのはやっぱり学校だと思います。

食べることは一生ついてまわり、一番大事なことだと思っています。

何年もやっけていて同じことばかり言っているのではなんとかしていかないといけないとも思います。

**(部会長)**

活発なご意見をいただきありがとうございます。続きまして平成30年の食育絵手紙コンクールの審査に移りたいと思います。事務局より説明をお願いします。

**(事務局)**

審査について説明 資料4

**(部会長)**

ただいま事務局から説明のあったとおり本会委員の選考により最優秀賞である知事賞を1点選定、優秀賞として、兵庫県漁業協同組合連合会、兵庫県栄養士会、兵庫県いずみ会、兵庫県小学校長会、おいしいごはんを食べよう県民運動推進協議会の団体賞を決定いたします。本日配布されている2次審査様式のところにテーマ①とテーマ②のそれぞれ1位と2位を記入していただくようお願いいたします。

**【 審査 】**

**(事務局) 資料5**

お待たせいたしました。絵手紙コンクール第2次審査選んでいただいてありがとうございます。

**【審査結果発表】 ※結果は別紙参照**

**(部会長)**

これで異議がなければ事務局に進行を返させていただきます。

**(事務局)**

ありがとうございます。事務局より最後に情報提供させていただきます。

**【情報提供】**

それではこれを持ちまして本日の食の安全安心と食育推進部会を終了させていただきます。本当にありがとうございます。